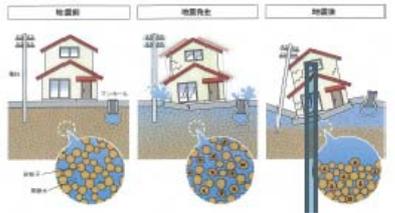
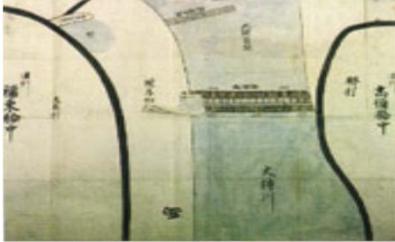
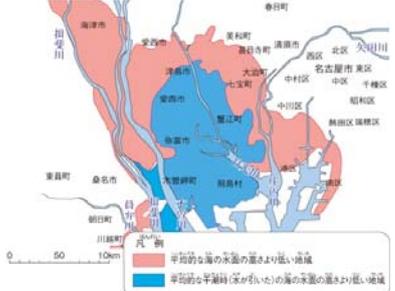
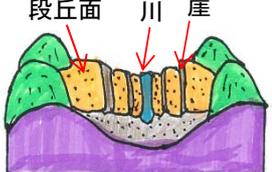
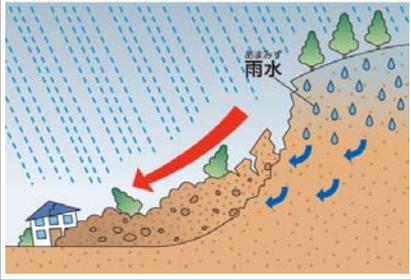
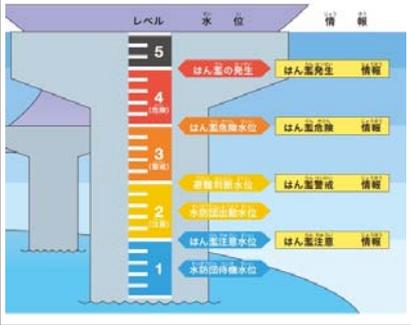
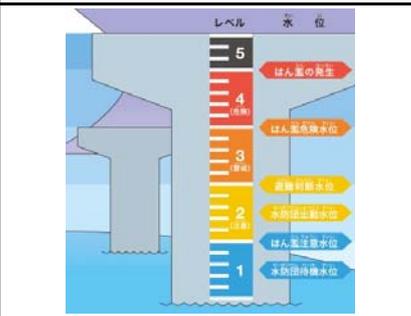


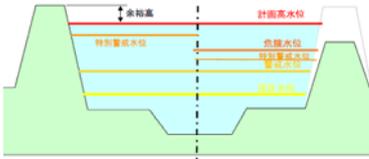
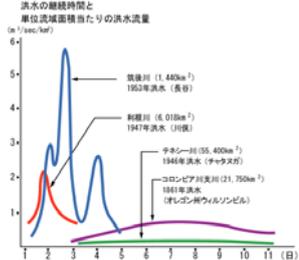
自分で考え自分の命を守る防災テキスト

用語集

区分	用語	解説	
あ	油島の締切工事	<p>油島締切堤の附近は、かつて、木曾川と揖斐川が合流し、木曾三川の水害の大きな原因となっていた。</p> <p>宝暦4年（1754年）に着工した宝暦治水は、薩摩藩士の多くの犠牲者と献身的な努力により同5年に竣工したが、この油島締切が最大の難工事場所で一部を残し堰として完成した。その後も徳島藩などの御手伝普請によって、通船路としての喰違部をもった洗堰として完成した。更にこの締切堤は、明治20年に着工された明治改修によって、完全な締切堤に改造された。</p>	
い	伊勢湾台風	<p>伊勢湾台風は、昭和34年9月26日午後6時13分頃、和歌山県潮岬付近に上陸し、伊勢湾の西側を沿う形で北上し27日午前1時に日本海にぬけた台風である。この台風は、上陸時の気圧が929.2hpa、上陸時の風速が55.3m/sの大型なもので、昭和9年の「室戸台風」、昭和20年の「枕崎台風」とともに昭和の3大台風と呼ばれている。伊勢湾沿岸には、観測史上最大となる高潮が襲いかかり、死者・行方不明者が5,000人を超える被害を出した。</p>	 <p data-bbox="1091 880 1465 898">写真提供: 中部地区自然災害科学資料セン</p>
う	雨量計	<p>雨量計は、雨（降水）の量を計る機器のことで、日本では気象業務法等により気象庁などが観測している。</p>	
う	右岸	<p>右岸・左岸とは川の岸の呼び名で、川の上流から下流を眺めて右側を右岸、左側を左岸と呼ぶ。</p>	
え	江戸時代	<p>江戸時代は、日本の歴史において徳川将軍家が日本を統治していた時代である。慶長8年2月12日（1603年3月24日）に徳川家康が征夷大將軍に任命されて江戸（現在の東京）に幕府を樹立してから慶応4年／明治元年4月11日（1868年5月3日）に江戸城が明治政府軍に明け渡されるまでの265年間を指す。</p>	
え	液状化	<p>液状化は、地下水位の高い緩い砂地盤で発生する。これは、緩い砂の間に水がある状態で地震による揺れによって砂の粒子が下層で密になり、上層では液体状になり、家が傾き始めるのです。地表では砂が噴き出すことがある。</p>	

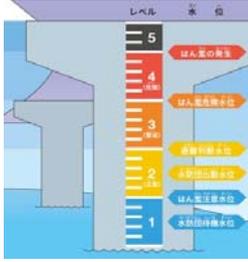
区分	用語	解説	
お	大樽川洗堰	大樽川は、長良川下流部の洪水被害を、長良川の洪水の分流によって軽減を図るため、新しく作られた河川である。この分流地点に大樽川洗堰が設けられた。大樽川洗堰とは、大樽川をせき止めその上を水が流れるようにした構造物のことである。	
か	海拔ゼロメートル地帯	海拔ゼロメートル地帯とは、濃尾平野の中で地表の標高が満潮時の平均海水面より低い土地のこと。濃尾平野の海拔ゼロメートル地帯の面積は、395km ² で我が国の最大規模である。	
か	河川流量	河川流量とは、河川の中を流れている表流水（伏流水や地下水を含まない）の量のことをいう。これは、雨の多少によって変わる。単位は、一般的に毎秒あたりの立法メートルで表される。河川流量は、流水が流れる断面積（河積）と流速を乗じた積である。	$Q = V \times A$ <p> Q : 流量(m³/S) V : 流速(m/S) A : 流水が流れる断面積(河積) (m²) </p>
か	河川堤防	河川堤防は、洪水時の流水を河道内において安全に流下させるための防災構造物である。河川堤防は、その多くは長い治水の歴史を経て形成されてきている。つまり、従来からあった堤防に土砂によって嵩上げや拡幅が繰り返され、補強されてきている。また、堤防を流水による浸食から保護するためにコンクリートなどで被覆したものが護岸です。	
か	海溝型地震	地球の表面は、厚さ100kmほどの固いプレートで覆われている。大陸や海は、このプレートの上に乗って1年間に数センチメートルの速さで動いている。日本列島の周りには、4つのプレートがあり、日本はそのプレートの上に乗っている。海溝型地震とは、海のプレートと陸のプレートの境界で起きる地震のことで、海のプレートは陸のプレートの端を一緒に引きずり込み、陸のプレートがこのひきづり込みに耐えられなくなり、元の形に戻ろうとして跳ね返る。この時、発生する揺れが地震である。海溝型地震は、海で発生するため津波が発生することもある。東日本大震災はこの典型である。	 
か	河岸段丘	河岸段丘とは、河川に沿う階段状の地形のことである。河川の浸食作用によりもとの河床が現在の河床より高い台地になっているもので、土地の隆起などにより生じ、その回数に応じて何段かの段丘を形成する。	

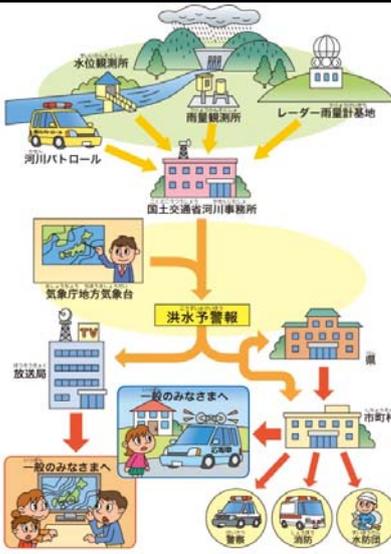
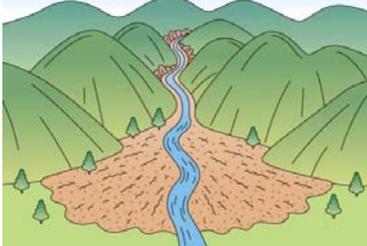
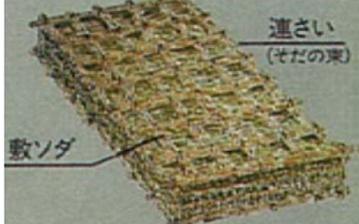
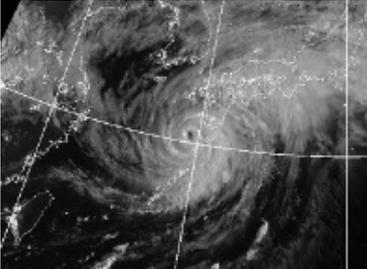
区分	用語	解説	
が	崖崩れ	<p>地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいう。がけ崩れは、突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く死者の割合も高くなっている。</p>	
こ	洪水予報	<p>洪水予報とは、増水によって河川の氾濫の恐れがある時、住民の避難行動等を促すために県・市町村・報道を通じて発表される情報のことで、危険の程度によって「はん濫注意情報」「はん濫危険情報」「はん濫発生情報」がある。これによって、市町村から「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」が発表される。市民は命を守る行動が必要です。</p>	
き	木曾川文庫	<p>木曾川文庫は、木曾三川に関する各分野の図書・研究論文等の収集保存を図り、先人の偉業を顕彰し、併せて今日的な治水のあり方を学ぶ場とし広く一般の方や研究者の方々にご利用いただくように昭和62年10月8日に開設された。所在地は、愛知県愛西市立田町福原である。</p>	
き	気候変動	<p>気候変動とは地球の気候の変化について使われる言葉である。気温のほか降水量や雲なども含まれ、長い時間スケールでの気候変化について使われる。</p>	
ぎ	逆川の締切工事	<p>天正14年の大洪水によって木曾川の河道は大きく変わり、木曾川の一部が分派し西北に流れ、長良川に合流するようになった。この川が、南向きに流れる他の川と逆向きであったことから「逆川」と名付けられた。宝暦治水では、この逆川の締切り工事が行われ、1754（宝暦4）年12月に完成した。</p>	
け	決壊	<p>水の作用（浸食作用）や堤防からの浸透、堤防の斜面の崩れなどによって、堤防が壊れた状態をいう。これによって、増水した川の水が住んでいる地域へ流れ込み、家や田畑が浸水する。</p>	
け	警戒水位	<p>出水時において災害の発生する恐れがある水位で、水防団が出動し警戒にあたることとされている水位。洪水注意報を発表する指標となる水位でもある。『水防法』に基づいて、「水防警報対象河川」の主要な水位観測所において定めることとされている。現在では、「はん濫注意水位」に呼び名が改訂されている。その他に「はん濫危険水位」、「避難判断水位」がある。</p>	

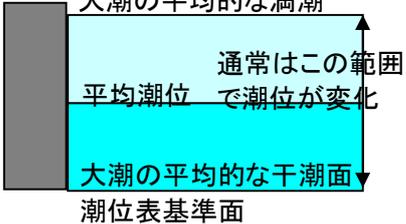
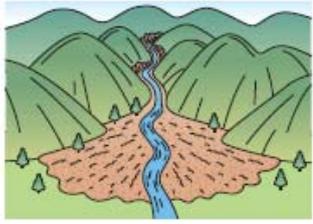
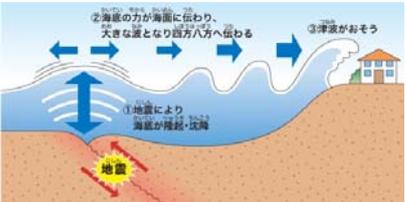
区分	用語	解説	
け	計画高水位	河川工事などの設計において基準となる水位で、その堤防が耐えられる最高の水位である。	
こ	降水量	降水量とは、大気から地表に落ちた雨（雪・あられ・ひょうなどを含む）の量で、雨量計などで計測する。雨量計で計測する降水量には、測定時間によって、時間降水量・24時間降水量・2日降水量がある。単位はミリメートルである。	
こ	洪水	洪水とは、豪雨によって河川の水かさが増加し、異常な流量にまで達する現象及びその時の流れの状態をいう。一般的には、河道から水が氾濫することを洪水と呼ぶ場合があるが、氾濫は洪水によって引き起こされる結果の一つであり、“氾濫＝洪水”ではない。	
こ	高水敷	低水路と堤防に挟まれた平らな土地を高水敷といいます。これは、堤防を強い水から守るために整備される。普段は、公園等に利用されている。	
こ	閘門	閘門は、水位の異なる河川や運河、水路の間で船を通過させるための水位調整をする装置である。	
こ	国営木曾三川公園	国営公園とは、日本において都市公園法に定められた要件を満たしている公園または緑地で、国土交通省が設置するものをいう。中部地方では、国営木曾三川公園がこれにあたる。	
こ	洪水到達時間	洪水到達時間とは、降った雨がある地点までに到達する時間である。大流域で勾配が緩い河川ほど洪水到達時間は長く、小流域で勾配が急な河川ほど洪水到達時間は短くなる。四刻八刻十二刻を参照	

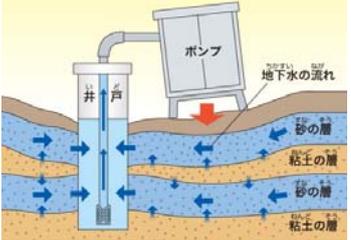
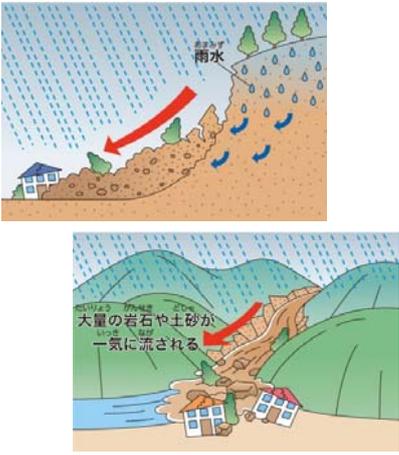
区分	用語	解説	
ご	護岸	川を流れる水の作用（浸食作用など）から河岸や堤防を守るために、水があたる堤防などの斜面に設けられる施設で、コンクリートなどで覆うような構造のもの。	
さ	猿投神社	濃尾平野の東橋を形成する猿投山の南麓に鎮座する猿投神社に、西暦822年以降の史料があるが、その創建年代は弥生時代、古墳時代と諸説あるも明らかでない。この神社に伝わる養老元年(717)の尾張古図によれば、かつて、濃尾平野が海であったことを物語っている。また、この地図から「熱田台地」は海に面していたことや、「枇杷島」「清洲」「津島」などは島であったことが分かる。	
さ	三角州	扇状地と三角州は、河川の運搬および堆積作用によって形成された地形である。三角州は、河川の流速が小さくなった河川の河口部に砂や粘土が堆積した地形のことである。	
さ	砂防	砂防とは、土砂災害を防止するための手段や事業の総称である。砂防事業は、土石流の捕捉と土砂の移動を防止するため、荒廃した溪流や扇状地等で行う防災事業で、砂防ダムなどの構造物の設置とその下流で行う流路の整備などがある。また、広義的には地すべり対策や火山性災害の防止対策がある。	
さ	砂防堰堤	砂防堰堤は、川の上流につくられ土砂災害を防止する施設をいう。水をためるダムと違い土石流等によって発生する土砂を貯めている。また土砂を貯めることで兩岸の山すそを固定し山腹の崩れを防止することができる。	
さ	災害対策基本法	災害対策基本法は、国土並びに国民の生命身体及び財産を災害から保護するため、防災に関し、国、地方公共団体及びその他の公共機関を通じて必要な体制を確立し、責任の所在を明確にするとともに、防災計画の作成、災害予防、災害応急対策、災害復旧及び防災に関する財政金融措置その他必要な災害対策の基本を定めることにより、総合的かつ計画的な防災行政の整備及び推進を図り、もって社会の秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的とする。本法は、伊勢湾台風による災害を契機として制定された。	

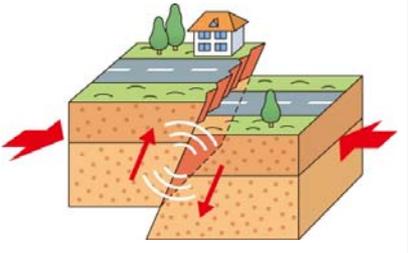
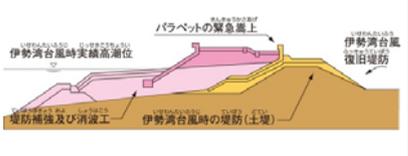
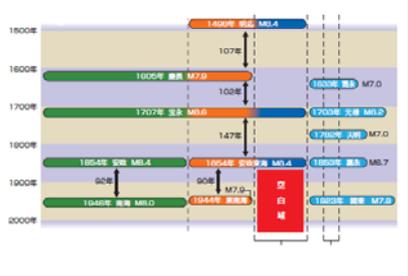
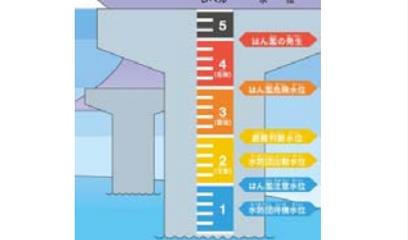
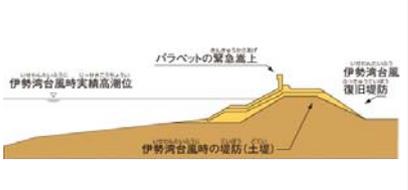
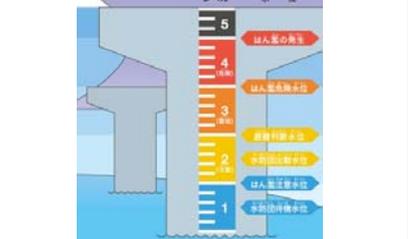
区分	用語	解説	
さ	サンドポンプ船	河川や海底掘削を行う建設機械で、陸上の掘削機械に相当するもの。	
し	自然災害	<p>自然災害とは、気象、火山噴火、地震、地すべりなどによって、人命や人間の社会活動に被害が生じる現象をいう。災害対策基本法による定義では、暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象となっている。</p> <p>自然現象が、人的被害を伴う「自然災害」に発展したり、災害が拡大したりするには、現地の社会条件が大きな影響を及ぼすことになる。</p> <p>我が国は、下記の自然特性により自然災害に対し脆弱である。</p> <p>山岳国 国土面積の約7割が山地、丘陵地。急峻な脊梁山脈が列島を縦断 「日本は世界有数の山岳国」</p> <p>火山国 地球のわずか0.3%の面積で、世界の活火山の1割程度にあたる108活火山が集中 「日本は世界有数の火山国」</p> <p>地震常襲国 地球のわずか0.3%の面積で、地震放出エネルギーは約10% 「日本は世界有数の地震国」</p> <p>多雨国 年間雨量1,718mm（世界の年平均降水量約970mm） 「日本は世界の2倍の多雨国」</p> <p>台風常襲国 平成16年は10個の台風が上陸し、各地で甚大な被害が発生 「台風の年間平均接近数約11個」</p> <p>多雪国 国土の約5割が積雪地域 「積雪50cm以上の地域に2,000万人以上が居住」</p>	 <p>The bar chart shows: 人口 (Population) 50%, 面積 (Area) 3% (with 10% for flood-prone areas and 20% for non-residential areas), 資産 (Assets) 75%. The map labels zones like 西南日本内帯, フォッサマグナ地域, 東北日本, and 西南日本外帯. The seismic map shows high activity in Japan. The tectonic diagram shows the Pacific Plate, Eurasian Plate, and Philippine Sea Plate.</p>
し	四刻八刻十二刻	<p>四刻八刻十二刻（しときはっときじゅうにとき）この言葉は、雨が降り始めてから洪水になるまでの時間を表している。揖斐川で四刻（8時間）、長良川で八刻（16時間）、木曾川では十二刻（24時間）かかるという意味の古い言い伝えである。（一刻＝約2時間）。地盤の高さと河川の高さは木曾川、長良川、揖斐川の順で低くなっている。雨は、西から降り始め東へ移動するため、河川の出水は揖斐川、長良川、木曾川の順となる。</p> <p>このため、揖斐川の下流部の地域では長良川と木曾川の出水の影響を受けるということです。</p>	

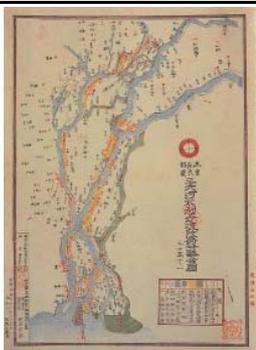
区分	用語	解説	
し	指定水位	出水時において、水防団が待機する水位で、現在では「水防団待機水位」に呼び名が改訂されている。	
し	震度	震度は、計測震度計により観測された数値で、「震度0」「震度1」「震度2」「震度3」「震度4」「震度5弱」「震度5強」「震度6弱」「震度6強」「震度7」の10階級となっている。	
し	締め切り	大樽川が完成すると長良川の水の多くが大樽川に流れるようになり、今度は揖斐川流域の洪水の危険性が増した。このため、宝暦治水を経て明治改修工事で長良川と完全に締め切られた。洗堰は洪水の一部を調節するため、川をせき止めその上を水が流れるのに対し、締め切りは洪水による氾濫を防止するため洗堰を締め切ったものである。	
じ	上昇気流	上昇気流は、地形の特徴・海面温度の上昇・低気圧などによって大気が上昇する現象のことをいう。	
じ	縄文海進	縄文海進とは、縄文時代に日本で発生した海水面の上昇のことである。海面が今より5メートル高かったと言われ、縄文時代前期の約6,000年前にピークを迎えたとされている。	
す	スーパー伊勢湾台風	スーパー伊勢湾台風とは、昭和34年の伊勢湾台風を超える、これまでの我が国で観測された最大規模の台風（1934年室戸台風級）が伊勢湾岸地域に対して最悪のコースをたどった場合を想定した台風で、濃尾平野における高潮による危機管理行動計画を議論するために使われています。	
す	水防活動	水防活動とは、河川が増水し堤防が崩れ始めるなど危険な状態になった時、災害を防止し被害を最小限に抑えるために、堤防などを巡視し、災害発生危険性がある箇所などで土のう積みなど応急的な活動をいう。	

区分	用語	解説	
す	水防警報	水防警報とは、河川の増水や高潮によって災害の恐れがある時、河川管理者から水防機関に発表される水防活動に対する情報のことである。	
せ	扇状地	扇状地と三角州は、河川の運搬および堆積作用によって形成された地形である。扇状地は山間を流れていた河川が開けるところに形成する扇状の堆積地形をいい、河川上流部に発達する。堆積物は、粗い土砂である。	
せ	船頭平閘門	<p>明治改修以前、木曾・長良・揖斐の三川は入り乱れて流れ、米や木材などの物資は川伝いに運ばれていた。しかし、明治改修の三川分流工事によって船は自由な行き来ができなくなり河口に迂回する必要となった。このため、船頭平閘門は、木曾川と長良川の間を船が行き来するために設置された。</p> <p>木曾三川の水面の高さは、木曾川、長良川、揖斐川の順番で低くなっており、船が行き来するためには水面の高さの違う川を水門で水位を調節する必要があった。船頭平閘門は、水位調節によって水面の高さを一定に保つ役割です。</p>	
そ	粗朶沈床 (そだちんしょう)	粗朶沈床とは、粗朶と呼ばれる里山の雑木から伐採した木の枝を用いて施工する伝統的な河川工法のひとつで、明治初期にオランダ人技師によって伝えられ、緩流河川の根固工・根固水制工として用いられている。	
た	台風	熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼ぶが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上のものを「台風」と呼ぶ。	 <p>気象庁ホームページより</p>

区分	用語	解説	
た	高潮	高潮は、台風や発達した低気圧が海岸部を通過するときに、気圧の低下による海面の吸い上げと風による吹き寄せによって海面が高くなる現象をいう。	 <p>写真提供: 株日映像</p>
た	高潮堤防	堤防には、河川の洪水を防ぐ河川堤防と高潮による被害を防ぐ高潮堤防がある。高潮堤防は、一般的には高潮時の波が堤防を越えても、堤防が決壊しないようコンクリートなどで覆われた構造となっている。	
ち	潮位	潮位とは、基準面から測った海面の高さで、潮の満ち引きによって変化する。また、気圧差や風によるものを気象潮といい、代表的な気象潮は高潮である。	
ち	沖積平野	河川の堆積作用によって形成された平野で、上流から下流に向かって、扇状地、自然堤防帯、三角州に配列する。河川の狭窄部から川が広がったところから形成される。	
ち	地すべり	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいう。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼすことがある。また、一旦動き出すとこれを完全に停止させることは非常に困難である。我が国では、地質的に弱いことに加えて梅雨あるいは台風などの豪雨により、毎年各地で地すべりが発生している。	
つ	津波高	津波高とは、平常潮位から津波によって海面が上昇した高さの差をいう。遡上高とは、海上から内陸へ駆け上がる高さをいう。	
て	堤内地	河川に沿って堤防が築かれているとき、洪水の氾濫から守られている方の土地を堤内地という。反対に低水路や高水敷など河川の流水が流れている方の土地を堤外地という。	

区分	用語	解説	
て	堤外地	低水路や高水敷など河川の流水が流れている方の土地を堤外地という。反対に洪水の氾濫から守られている方の土地を堤内地という。	
て	低水路	通常状態の河川の流れを「低水」といい、低い水が流れている流路を「低水路」という。これに対して大雨が降って川の水面が高くなった時の流れを「高水」という。高水が流れているときの水面の高さを「高水位」という。	
ぢ	地盤沈下	地盤沈下とは、地表面が沈下する現象のことをいう。濃尾平野の地盤沈下は、地下水の過剰揚水によって粘土層の収縮から起こったものである。現在までに地下水の揚水規制や表流水への転換、沈下した公共土木施設等の改善等が図られてきた。	
と	東海豪雨	平成12年（2000年）9月11日から12日にかけて、名古屋市をはじめとする東海地方は、猛烈な集中豪雨に襲われた。名古屋市では平年の9月における月間降水量の2倍となる428mmという豪雨によって名古屋市及びその周辺の庄内川・新川・天白川・境川で堤防決壊や浸水被害などの災害が発生した。名古屋市では、都市や地下鉄などの施設が浸水したことから都市型水害の典型であった。	
ど	土砂災害	土砂災害には、崖崩れ・土石流・地すべりによるものがある。崖崩れは、地面にしみこんだ雨や地下水などによって、急な斜面（崖）が地面をゆるめ突然滑り落ちることをいう。地すべりは、広い範囲の地面がすべる現象をいい、緩やかな斜面の場所で、粘土のような滑りやすい地層に雨水などがしみこみ、地下水が上がることによって地面が滑ることをいう。土石流は、谷や山の斜面から崩れた土石が大雨などによる水と一緒に流れる現象をいう。土石流などは、一気に下流へと押し流れることから、凄まじい力をもち一瞬にして人命を奪う恐ろしい災害である。	
ど	土石流	土石流は、崩れた山腹や川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象をいう。その流れの速さは規模によって異なるが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させることがある。	

区分	用語	解説	
な	内陸型地震	内陸型地震は、陸のプレートの地殻の内部で起きる地震のことで、かつて地震が起こった痕跡である活断層の付近で発生する。陸のプレートの内部には、海のプレートに引きづり込まれることにより押されたり、引っ張られたりする力が働いている。	
な	波返工	海岸の堤防や護岸で、波や波しぶきが打ち上げられるのを防ぐために施工された施設である。	
な	南海トラフ巨大地震	南海トラフ巨大地震とは、遠州灘沖・熊野灘沖・四国沖の南海トラフ（太平洋の深い溝）で起こる海溝型地震のことをいう。歴史的にこの場所で東海地震・東南海地震・南海地震が発生している。地震発生頻度は、およそ100年から150年となっている。東海地震の震源域では1854年の安政東海地震以降、地震が発生しておらず歪エネルギーの蓄積限界を向かえているため、この地震に直面しているといわれている。	
は	はん濫危険水位	洪水等により相当の家屋浸水等の被害を生じるはん濫の恐れがある水位。	
は	パラペット	パラペットとは、パラ（防護）とペット（胸）の合成語としてラテン語から派生したもので、一般的に建物の屋上、テラスのへり、橋梁の両側などに設け人の落下を防ぐ手すり・高欄などをいう。河川工法におけるパラペットとは、洪水等の氾濫などを防止するため、胸壁タイプでコンクリートで設けられた施設のことをいう。	
ひ	避難判断水位	市町村長の避難勧告等の発令判断の目安、住民の避難判断の参考となる水位	

区分	用語	解説	
ほ	宝暦治水	宝暦治水とは、江戸時代の宝暦年間（1754年（宝暦4年）2月から1755年（宝暦5年）5月）、幕府の命令によって薩摩藩が行った濃尾平野の治水工事である。当時の木曾三川は、網の目のように川が流れ、複雑に分流や合流していた。地表面の高さは、木曾川、長良川、揖斐川の順番に低くなっており、濃尾平野の中で西側の地域では最初に揖斐川の出水で被害を受け、次いで長良川・木曾川の出水で最後まで繰り返し被害を受けていた。宝暦治水の主な工事は、木曾川と揖斐川を分ける工事、大樽川の開削と締切工事、木曾川から分流する逆川（岐阜県羽島市）の締切工事であった。	
ま	マグニチュード	マグニチュードとは、地震が発するエネルギーの大きさを対数で表した指標値である。揺れの大きさを表す震度とは異なる。地震のエネルギーが1,000倍になるとマグニチュードが2増えることを意味する。	$\log_{10} E = 4.8 + 1.5 M$ <p>E: エネルギーの大きさ M: マグニチュード</p>
め	明治改修	明治改修とは、1887年（明治20年）から1912年（明治45年）に行われた木曾三川の分流工事。この木曾三川分流工事は、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケたちの計画によって行われた。この工事によって木曾三川は、今の形となった。	
め	明治時代	明治時代は、江戸時代の慶応の後の1868年1月25日（明治元年1月1日）から1912年（明治45年）7月30日までの期間を指す。	
ゆ	遊砂地	遊砂地とは、もしも大量の土砂が流れてきた時に、一気に町の中まで流れ込まないように、途中で一時的に土砂を受け止め土砂災害の防止を図る施設のことをいう。	
よ	ヨハニス・デ・レイケ	1873年（明治6年）に明治政府は、殖産振興及び国土保全などの施策を進めるため、外国人技師を多く招聘した。ヨハニス・デ・レイケは、ジョージ・アーノルド・エッセルらとともに来日し、木曾川や淀川、三国港の改修などに関わった。（ヨハニスとヨハネスは、オランダ語の訳の違いによるものでどちらも同じ）	

区分	用語	解説	
よ	養老断層	<p>養老断層は、養老－桑名－四日市断層帯を構成するもので、養老山地の東縁に発達する活断層帯です。</p> <p>この断層帯は、岐阜県垂井町から三重県桑名市を経て四日市市まで、ほぼ養老山地と濃尾平野の境界及び養老山地の南に続く丘陵地の東縁に沿って延びる、長さ約60kmの断層帯です。</p> <p>この断層は、西側の養老山地側を上昇させ、東側の濃尾平野側を沈降させる垂直ずれの断層である。</p>	
り	流域・流域面積	<p>流域は、ある河川に対し降水が集まる範囲のことをいい、その面積を流域面積という。</p>	
わ	輪中	<p>輪中とは岐阜県南部と三重県北部、愛知県西部の木曾三川とその支流の扇状地末端部から河口部において、自衛手段のために堤防で囲まれた集落のことである。</p>	

